

平成23年度 言語文化生涯学習講座

「ローカル&グローバル」

庄原キャンパスで毎年恒例の「言語文化生涯学習講座」を今年度も開催いたします。6回目となる今回は、これまでで最長の5日間の講座です。「ローカル&グローバル」というテーマのもと、地域と世界を考えていきたいと思えます。どうぞ奮ってご参加くださいますよう、お願い申し上げます。

回	日時	タイトル	講師
1	2月29日(水) 18:00~19:30	日英対照言語学を覗く(2)	片山 圭巳
2	3月1日(木) 18:00~19:30	台湾はなぜ「日本」を地域遺産として残すのか？ ー日本の植民地遺産のその後	上水流 久彦
3	3月2日(金) 18:00~19:30	広島で生まれた英語の辞書	馬本 勉
4	3月7日(水) 18:00~19:30	広島から世界へのメッセージ： 『はだしのゲン』の英訳について	ロナルド・スチュワート
5	3月8日(木) 18:00~19:30	言語比較と「ローカル&グローバル」	銭廣 雅之

開催日時：平成24年2月29日(水)・3月1日(木)・2日(金)・7日(水)・8日(木)
いずれも18:00~19:30(90分間)

会場：県立広島大学 庄原キャンパス CALL 教室(2号館5階2502講義室)

対象：英語学習経験を問わず、興味関心のある方。初心者歓迎。

定員：各回とも30名(申し込み先着順)

受講料：無料

申込方法：次の(1)~(4)を明記の上、ご参加希望の講座日までに、はがき、ファックス、電子メールのいずれかで、県立広島大学庄原地域連携センターまでお申し込みください。

(1) 名前(フリガナ) (2) 住所 (3) 電話番号 (4) 受講希望回(※5日間の講座のうち、ご希望の回のみ受講可)

申し込み先：〒727-0023 庄原市七塚町562 県立広島大学庄原地域連携センター
ファックス：0824-74-1704
電子メール：gakujutu@pu-hiroshima.ac.jp

問合せ先： 県立広島大学 馬本研究室 電子メール：umamoto@pu-hiroshima.ac.jp
しょうばら産学官連携推進機構 TEL：0824-72-2121(庄原商工会議所内)
電子メール：arita@shobara-sangakukan.com

主催： 県立広島大学 しょうばら産学官連携推進機構

1) 日英対照言語学を覗く (2)

片山 圭巳 (かたやま たまみ)

対照言語学とは、異なった言語を比較することによって、言語を知ろうとする学問です。昨年は日本語と英語の語彙を比較しましたが、今年はその続きとして文法の比較を行います。日本語と英語の文法を比較することで、言語とはなにかを少し考えてみたいと思います。普段、何気なく話している自分の言語にはどのような特徴があって、どんな文化の影響を受けているのかを一緒に考えましょう。

2) 台湾はなぜ「日本」を地域遺産として残すのか？－日本の植民地遺産のその後

上水流 久彦 (かみづる ひさひこ)

地域の、社会の歴史遺産として台湾では日本の植民地時代の建物が保存されています。それはどうしてでしょう。台湾の人が日本のことを好きだから！ そのような単純な理由ではありません。そこには東アジアの国際関係の影響などがあります。地域にとって重要なものは時代によって変わってきています。ローカルとグローバルの交差点に地域にとって大切な記憶が存在します。台湾のなかの「日本」を事例にそのことを考えます。

3) 広島で生まれた英語の辞書

馬本 勉 (うまもと つとむ)

大正5年に出版された『語原本位英和辞典』は、広島中学校英語研究部によって編纂されました。この辞書には、旧制中学で学ぶ当時の生徒たちに必要な、膨大な英単語を学習するためのコツがちりばめられています。英語教育史上におけるこの辞書の位置づけや成立事情を探るとともに、現代的な視点からの再評価を試みたいと思います。

4) 広島から世界へのメッセージ：『はだしのゲン』の英訳について

Ronald Stewart (ロナルド・スチュワート)

中澤啓治の『はだしのゲン』（および『おれは見た』）の英訳の背景、そして訳されてからの受容と影響について簡単に紹介します。その後『はだしのゲン』が翻訳されたプロセスで何か変わったのか、何が変わらなかったのか、を触れながら、中澤のメッセージがどのぐらい伝わったのかを参加者と一緒に考えます。（これは英語のレッスンではありません。参加者には特に英語能力が特に必要ではありません。）

5) 言語比較と「ローカル&グローバル」

銭廣 雅之 (ぜにひろ まさゆき)

日本語の助詞の「は」（と「が」）の用法と西欧語の動詞の人称変化、という両言語の中心テーマを比較して両文化の特色を導出し、その視点から近代における「地域」と〈地方－中央〉の「地方」という観念を吟味します。世界分節化の基本単位としての「地域」の可能性を考えます。

